

Report by hokenshu chief
Kawasaki (Tokyo).

on promoting education
in not throwing away pet's
kennel - respecting
animals.

川崎市動物管理センター
所長 阿部 義昭 55 生まれてきた子犬、子猫

ペットブームが言われて 55 年、後ろめたさ
と身勝手さで、「好きな人
に飼ってほしい」と人目に
飼う目的と場所も考えず、
一時的な感情と気まぐれか
ら習性無視で飼うなら、近
隣騒音、放し飼い、咬傷
(くつしやう) 事故等を起こ
して、途中から手放し、
ペットは悲しい運命をたど
っている。



全国自治体によって引き
取られた動物のうち犬が三
十九万匹、猫が三十二万匹
処分されている。特に猫の
処分されている。特に猫の
八〇％は生後数カ月の子猫
捨て、エアガンで撃つ、
棒で刺殺する事件が起きて
いる。

いじめず 捨てず ふやさず

命の尊さ学ぶペット飼育を

いる。捨てる飼いと虐待 人間疎外等が交錯する中
する子供たち、共通するこ 動物はペットとしてで
とは生命尊重の観念が薄い はなく、共に生活する仲間
ことである。



動物愛護は言葉だけの理 伴侶(はんりよ) 動物
解でなく、真の生活感覚か として見直されてきてい
ら身に付ける。この傾向が人間の精
たものでな 神、行動、生理に好ましい
くはなら 影響を及ぼしている例が報
ない。その 告されている。

ために学校 動物と人間のかかわりは
教育、生涯学習の中で実際 「いじめない」「捨てな
に動物に触れさせて、肌で い」「ふやさない」の三原
命の尊さを感じ取り、愛護 則を踏まえて、命の尊さを
の心が芽生えるよう、かん 学んで、初めて動物との調
養することが必要である 和と共存が保たれていくも
う。 のと考える。

近年、核家族、高齢化、

(川崎市高津区)